

久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進協議会 平成30年度 第1回会議 会議要旨

日時	平成30年7月23日（月） 18:30～20:00
場所	久留米医師会館 教室1
出席者	<p>委員：松本委員、中島委員、岡委員、杉本委員、真木委員、大久保委員、今里委員、柴田委員、重永委員、山田委員、濱本委員、永江委員、後藤委員、吉永委員、縄崎委員、岩坂委員、永野委員、堀委員、豊福委員、中園委員、佐藤委員</p> <p>事務局：・健康福祉部 窪田部長 ・長寿支援課 堤課長、小山補佐、合戸補佐、坂田主査、上野 ・介護保険課 柴尾課長、高山補佐</p>
欠席者	無し
傍聴者	無し
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 各委員の自己紹介 3 会長・副会長の選出 4 報告事項 (1) 久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進協議会の役割について (2) 久留米市第7期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画について 5 その他 6 閉会
議 事	
<p>1 開会 <事務局></p> <p>2 各委員の自己紹介</p> <p>3 会長・副会長の選出</p> <p>4 報告事項</p> <p><会長></p> <p><事務局></p>	<p>これより、平成30年度第1回計画推進協議会を開催いたします。 (窪田部長より開会挨拶)</p> <p>(各委員より自己紹介) (委員の自己紹介後、事務局職員紹介)</p> <p>(会長に松本委員、副会長に中島委員を選出) (松本会長、中島副会長より就任挨拶)</p> <p>報告事項(1)「久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進協議会の役割について」事務局より説明を求める。</p> <p style="text-align: center;">(事務局より資料1に基づき説明)</p> <p>今の説明について、委員の皆様より何か質問はないか。 ちなみに、部会については、どれぐらいの数があるのか。</p> <p>資料4について、7期計画の策定にあたってのスケジュールを示している。27年度から3ヵ年開催しており、29年度は次期計画の策定についての会議を開催している。その中で専門部会について3回開催している。 8期計画の策定に向けて、どのような形で進めていくかは未定だが、前回の協議会と同様に、専門部会について開催したいと考えている。</p>

報告事項(2)「久留米市第7期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画について」事務局より説明を求める。

(事務局より資料3に基づき説明)

<副会長>

認知症に関する施策について、かなり色々やってきているが、周知が限られている。関心が高い人だけで、広がりを持たせる工夫について、成果目標、数値目標は出にくいと思うが、皆さんもそのようなものが欲しいのではないかと。出せるところ、出せないところあると思うが、見える化ということを進めている中で、何か考えなどがあればお願いしたい。

<事務局>

具体的な目標としては、計画書資料編のP59に、認知症サポーターの数をこのように増やしていこう、認知症予防地域講演会の参加者を増やしていこうといった指標を定めている。委員からのご意見としては、もう少し色んな方からの知恵を拝借しながら周知を進めていくべきではとのご意見だと思う。個別の事業の数値目標は掲げているが、それをより効果的にしていくための意見を、委員の皆様からお聞きしながら、計画を進めていきたいと考えている。

<会長>

指標の設定について、何を基準に設定して、どれぐらいの目標にしたらどの程度達成できるかといったものが欲しい。総括の中で、達成率の説明があったが、どういう意味合いでの達成というところが見えてこない。
例えば、介護保険の要介護の方については割りと皆さんに周知されていると思うが、問題は要支援だと思う。包括支援センターが使えるという認知度が足りない。またサービス内容にしても、やっているという説明だったが、年に1回、2回しても駄目。「やっています」的なものでは誰も使わないし、継続しない。もっと現実的なサポートについて、目に見える形でやってもらうと助かるが。私は要支援の方が問題だと思う。
それでは、他にご意見はありませんか。

<委員>

資料3のP15に、災害時のための支援体制が記載されているが、今回の大雨において、認定を受けている人達がどのような行動をとったのか、また市としてそれを把握しているのか。また、福祉避難所がどれだけ開設されて、どのような機能を果たしたのか、分かれば教えてほしい。

<事務局>

今回の災害において、久留米市では福祉避難所は開設されていない。有料老人ホームなどの施設における被害状況や施設の再開に向けての準備状況などは聞いている。今回の大雨における市民の避難については、情報発信など、どのようところに課題があったのか、今後、整理をしていきたいと考えている。
また、認定を持っている方の避難の状況については、市だけでは十分な把握はできないので、久留米市介護福祉サービス事業者協議会にお願いをして、どのようなことで困ったのか、また問題点があったのか、各事業者についてアンケートにて調査を行った。その中で、例えば訪問介護において、浸水がひどかったが、行かないと行けないので訪問した、また、ケアマネについては、ほぼ全員について安否確認を行ってもらったが、安否確認するにも電話が通じない、行けないなど、様々な困ったことを聞かせてもらった。今後、これ以上の災害が発生した時にどうするのかといったことを考えていきたい。

<p><委員></p>	<p>罹災証明についても、市役所や市民センターなどで発行していると思うが、高齢者は窓口までなかなか行けない。健康で、丈夫な人でないと行けない。そうなると後の処理もできない。また、最初に一次避難所に行かないといけませんが、高齢者については、福祉避難所に直接行けるルートについて、議論して欲しい。</p>
<p><会長></p>	<p>少し今回の協議とは内容が離れていると思われる。また、市からの情報がもらえるとと思うので、次に移りたい。</p>
<p><委員></p>	<p>計画書資料編のP 6 1の虐待防止について、虐待発生率を指標にしている。もちろん虐待は少ないに越したことはないが、家庭の密室の中で起きるので、見えづらい。その中でいかに発見して対応していくかになると思う。発生率は認知率だと思うが、認知率が少ないと権利擁護が進むかというところでは無いと思う。むしろ多く発見して、対応している方が権利擁護としては進んでいる。</p> <p>久留米市が虐待対応に積極的に動いているのは知っているが、発生率を下げるというよりも、解決率を上げるとか、対応するまでの時間を短くするといった指標の方が、権利擁護という視点からするとよいと思う。</p>
<p><委員></p>	<p>会長、副会長が言われたとおり、実践的な数値、例えば、認知症サポーターの数値について、総人数ではなく、延べ人数ではないかということを経前の会議において指摘をした。副会長が言われるように、興味がある方は何度でも参加されるが、興味がある、なしに関係なく受けてもらい、認知症のことを知ってもらうということを考えれば、例えば、久留米市の小学校では、4年生で認知症サポーター養成講座を受講させ、おさらいを兼ねて中学2年生でもう一度受講するということはどうか。子どもは学校であったことを家で親に話す。そうすることで、親の意識を変えていくということを目指したいのではないかと。市内の小学校で養成講座を受講すれば、受講した子どもやその親の意識を変えることができるのではないかと。</p> <p>また、今までは市内1箇所でシンポジウムを行っていたものが、地域の包括圏域ごとに介護予防フェスタをやるという動きになっている。その中で、高齢者虐待や認知症への対応について、地域の中で取り組みことができたらと考えている。</p>
<p><会長></p>	<p>非常に具体的なお意見、ありがとうございます。 他にご意見はありませんか。なければ次に移ります。</p>
<p>5 その他</p>	
<p><会長></p>	<p>その他、委員の皆様から何かありますか。事務局より何かありますか。</p>
<p><事務局></p>	<p>(事務局より資料4に基づき説明)</p>
<p><会長></p>	<p>第2回の開催予定は概ねいつ頃を予定していて、概要はどういったものか。</p>
<p><事務局></p>	<p>平成29年度の協議会でも協議いただいた「見える化システムによる課題分析」について年明けを予定しているので、年内には開催案内を行いたいと考えている。</p>
<p><会長></p>	<p>他になければ、司会を事務局に返します。</p>
<p>6 閉会</p>	
<p><事務局></p>	<p>以上で、平成30年度第1回計画推進協議会を終了いたします。</p>